

(10) 泌尿器科（井田病院）（選択科目）

◎カリキュラム責任者：小杉 道男 泌尿器科部長

A. 研修目標

1. 一般目標

尿路生殖器系に発生する疾患の理解を深め、手術や救急処置を含めた泌尿器科特有の基本手技の習得を行う。

2. 行動目標

- 1) 患者さんやその家族、上級医や他科医師と信頼関係を築き、コミュニケーションを大切にできる
- 2) 医療における守秘義務を理解する
- 3) 他科疾患の鑑別ができ、適切な時期に依頼することができる。
- 4) 正確な病歴聴取とその記載ができる。
- 5) 全身状態の把握、精神状態の観察、理学所見の把握とその記載ができる。
- 6) 泌尿器学的問題点の整理と、考察、診療計画の立案ができる。
- 7) 周術期における輸液、輸血の管理ができる。
- 8) 周術期管理における生命監視装置の評価ができる
- 9) 主要な術後合併症を列挙しその予防方法と対応を説明できる。
- 10) 周術期における医療事故、院内感染などの防止および発生後の対処法を理解しマニュアルに沿って行動できる。
- 11) 各種診断書、紹介状、経過説明書などが適切に記載できる。
- 12) 手術支援ロボットシステム「da Vinci ダ・ヴィンチ」による前立腺がんの手術に立ち会い、その適応や診療の流れについて理解する。

3. 経験目標

泌尿器科基本診察法と検査及びその処置が実施できる

- 1) 問診 尿量と排尿状態に関する理解
尿閉、無尿、残尿、頻尿 稀尿、尿失禁の問診から疾患の連想
泌尿器科的疼痛に関する理解とその対処
排尿痛、膀胱痛、腎部痛、陰嚢痛、会陰部痛
- 2) 直腸診 正常と前立腺肥大症、前立腺癌、前立腺炎の鑑別
- 3) 検尿所見 血尿、膿尿、塩類尿、乳糜尿、気尿、糞尿の理解 検尿沈渣と尿細胞診の判定
- 4) 経尿道的操作 対象疾患と技術の習得：尿道ブジー、膀胱鏡、膀胱内圧測定、逆行性腎盂造影
- 5) 画像診断 対象疾患と技術の習得；排泄性腎盂撮影、CT、MRI、RI、超音波
- 6) 疾患の理解 発熱を伴う泌尿器科的感染症に関する理解とその対処

膀胱炎、腎盂腎炎、前立腺炎、精巣上体炎
 泌尿器科悪性疾患の特徴とその治療法の理解
 腎癌、腎盂尿管癌、膀胱癌、前立腺癌、精巣腫瘍
 尿路結石の治療法の変遷と部位による治療法の違いの理解
 腎結石、尿管結石、膀胱結石、尿道結石
 泌尿器科良性疾患の特徴とその治療法の理解
 前立腺肥大症

- 7) 泌尿器科救急疾患の特徴とその対処法
 尿閉に対する導尿、結石疼痛の処置
 腎後性腎不全に対する腎瘻造設 コアグラタンポナーデの処置、
 8) その他 男性更年期、ED についての理解

B. 研修計画

期間は4週以上で延長可能。外来研修としてスタッフとともに外来診療、IVP 腹部超音波検査、膀胱鏡検査などを習得する。病棟研修として入院患者さん全員に対するカンファレンスや手術への参加、周術期の管理を習得する。当直も泌尿器科指導医と行い泌尿器科的救急疾患の診療を学ぶ。

【週間スケジュール】

	月	火	水	木	金
午前	病棟回診 新入院面談 放射線科検査	病棟回診 手術	病棟回診 新入院面談 放射線科検査	病棟回診 手術	病棟回診 外来でエコー 検査
午後	体外衝撃波結石 破砕術 外来内視鏡検査 放射線科検査	手術	体外衝撃波結石 破砕術 外来内視鏡検査 放射線科検査	手術	病棟多職種カンファレンス 体外衝撃波結石破砕術
夕方	医師カンファレンス 症例検討会	病棟回診	病棟回診	病棟回診	病棟回診

C. 指導体制

全ての指導医・上級医がチームで研修医の指導にあたる。

小杉 道男 部長 日本泌尿器科学会専門医・指導医
 日本がん治療認定医機構がん治療認定医

小宮 敦 部長	da Vinci Certificate ロボット支援手術プロクター認定 日本泌尿器科学会専門医・指導医 日本がん治療認定医機構がん治療認定医
荘所 一典 副医長	da Vinci Certificate ロボット支援手術施行資格 日本泌尿器科学会専門医

D. 研修評価

- 1) 研修医は、経験目標に従って、自己の研修内容を研修医手帳に記録し、退院サマリーを記載し、指導医に提出しフィードバックを受ける。
- 2) 研修終了時に、当院研修医評価票に基づいて評価を行う。